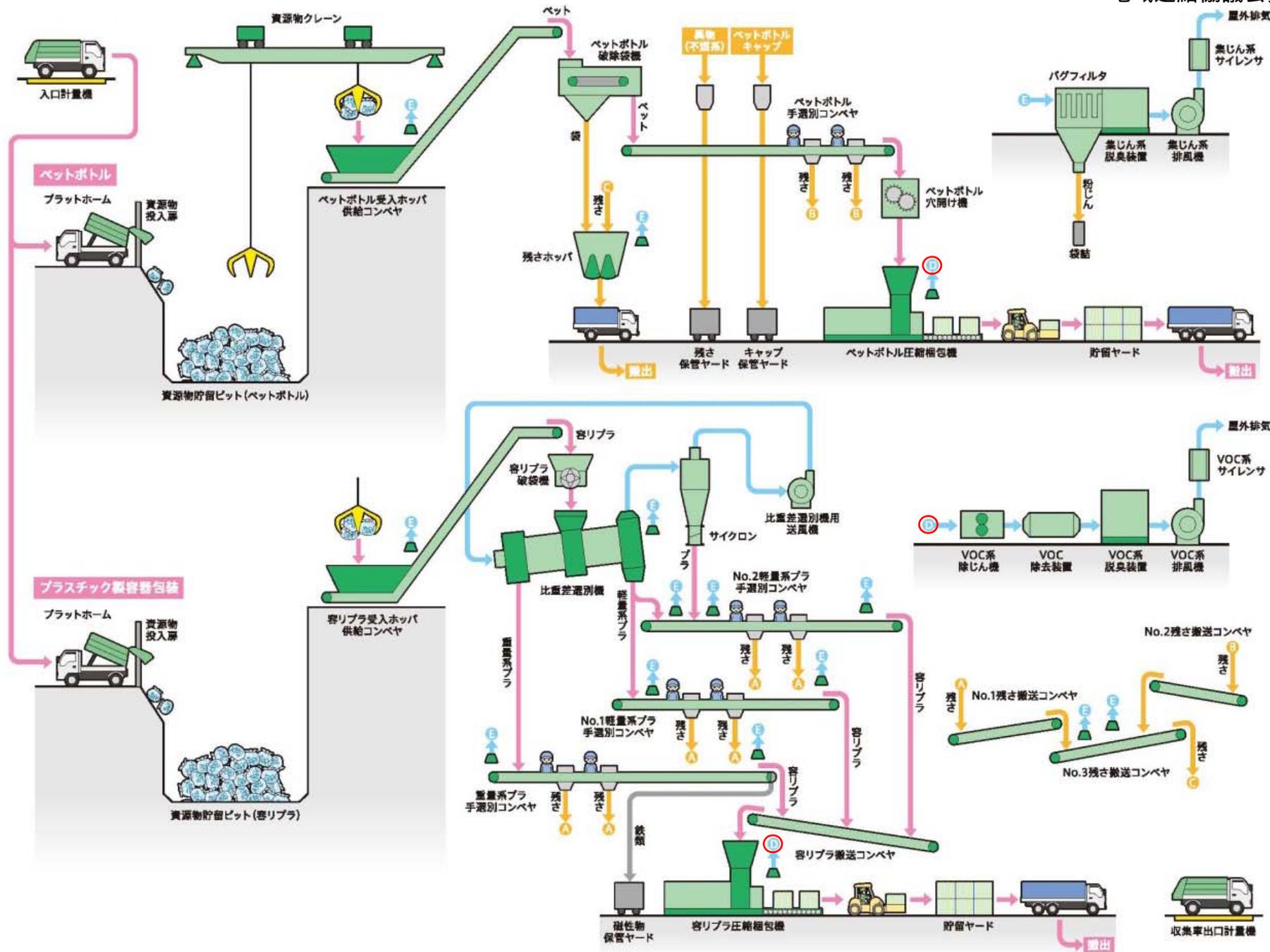
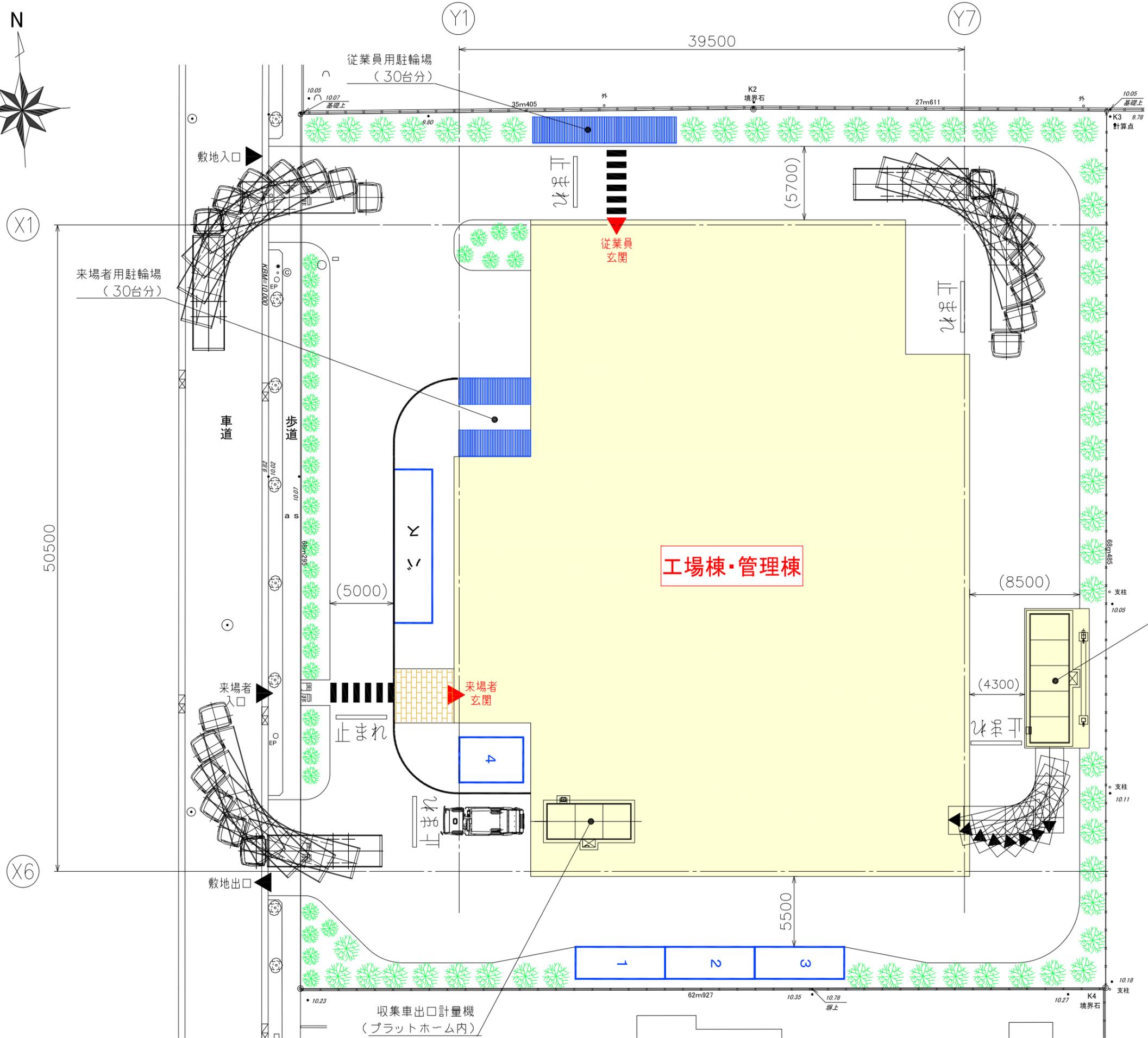
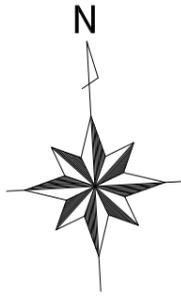


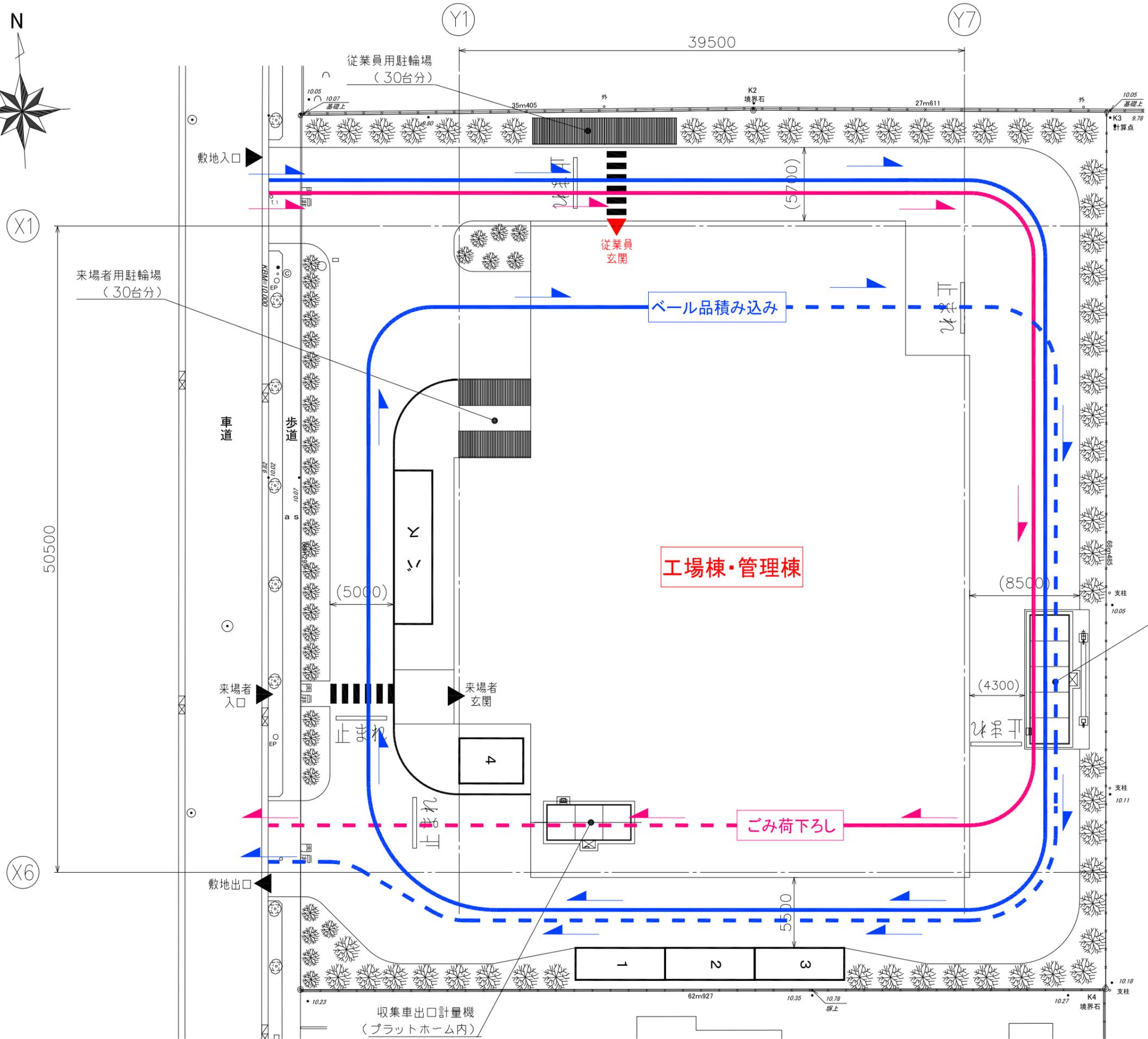
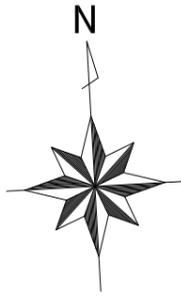
資源物処理の流れ

平成29年7月8日
地域連絡協議会資料



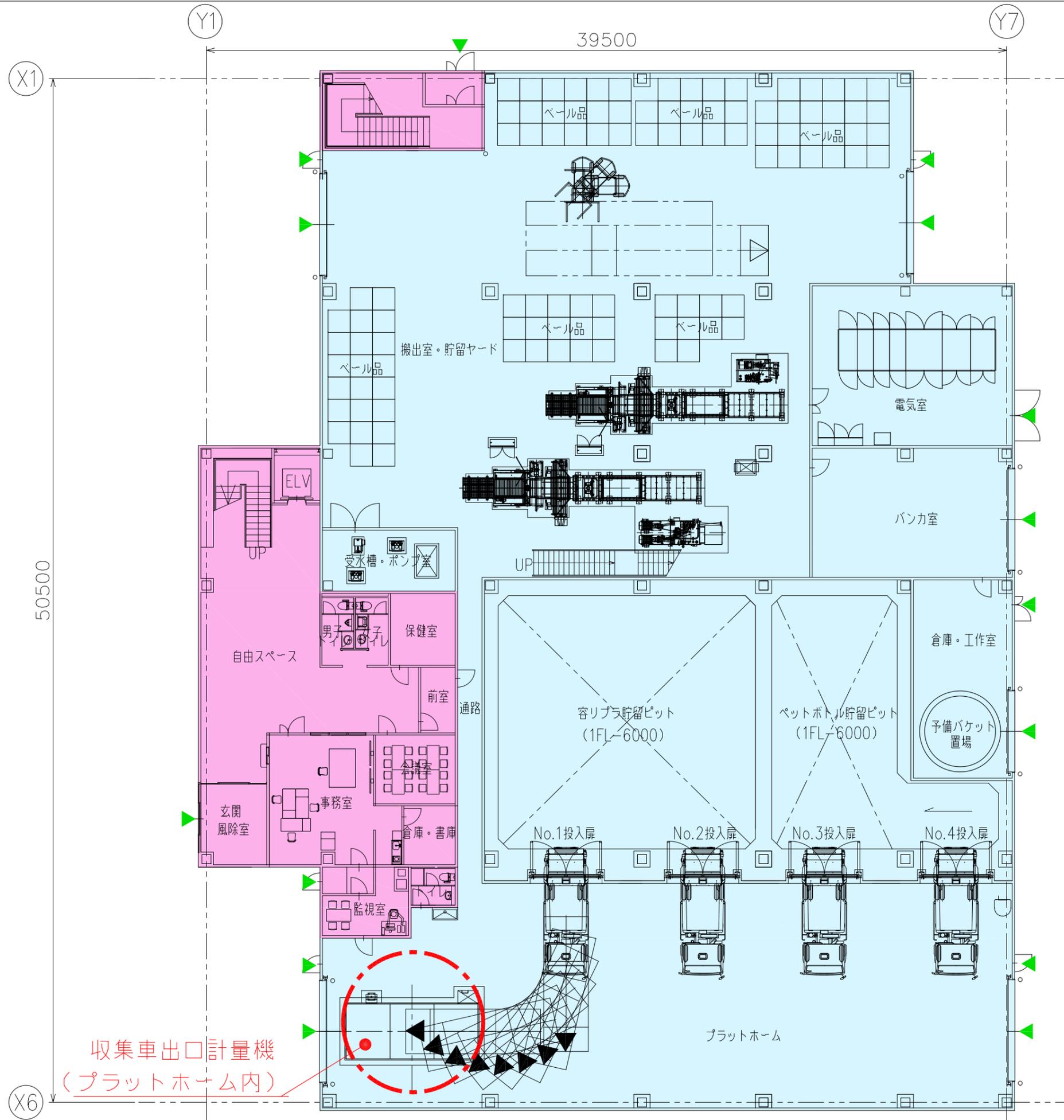
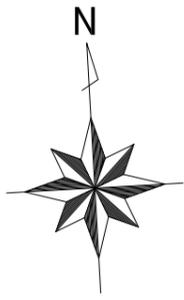


施設全体配置図
S=1:300 (A3)



凡例
—▶— 搬入車(2回計量)
—▶— 搬出車(2回計量)
※実線は入場時、破線は退場時を示す

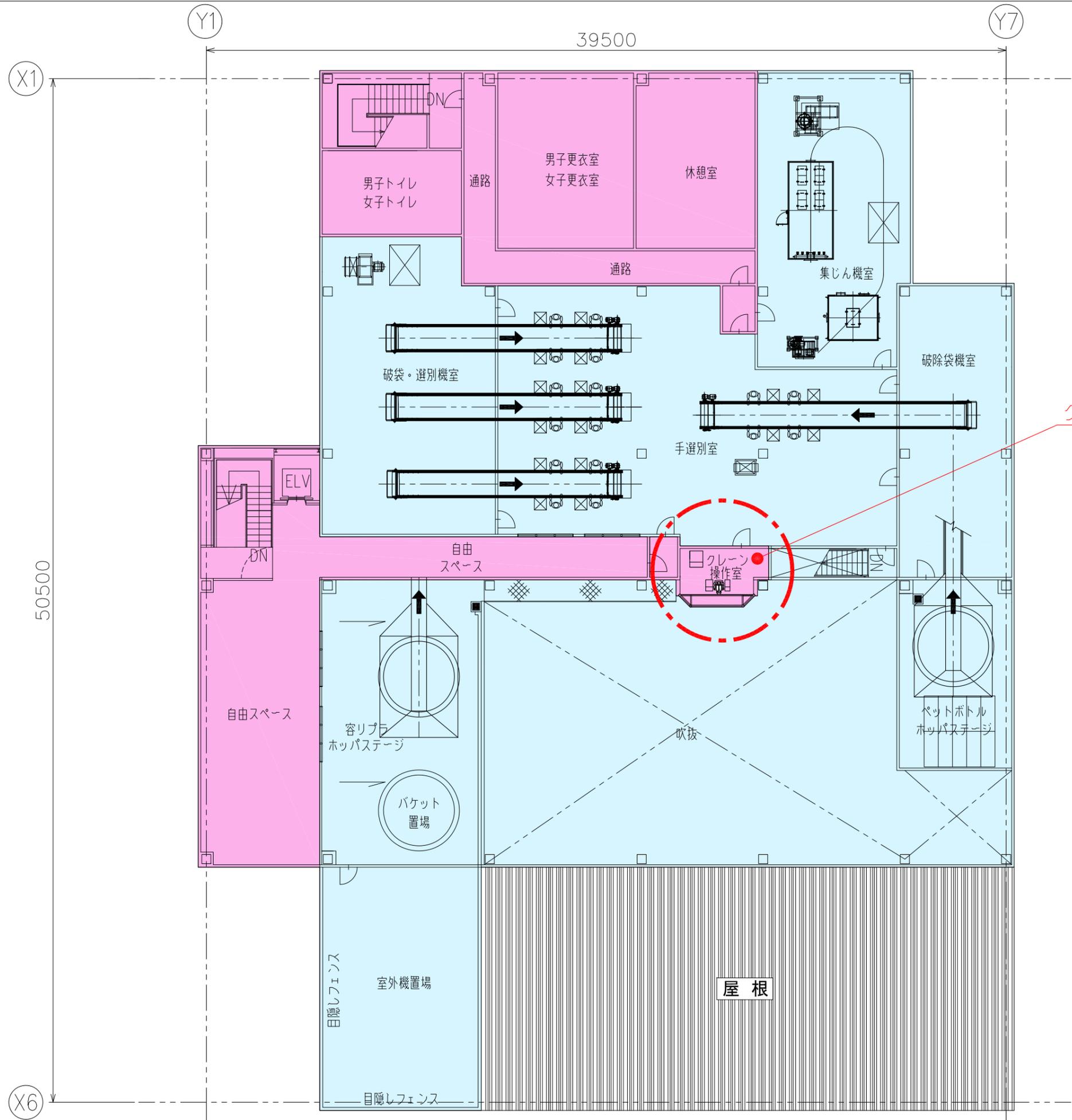
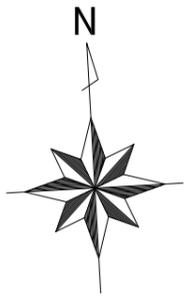
車両動線計画図
S=1:300 (A3)



収集車出口計量機
(プラットホーム内)

- 管理エリア
- 工場エリア
- ドア・シャッター出入口

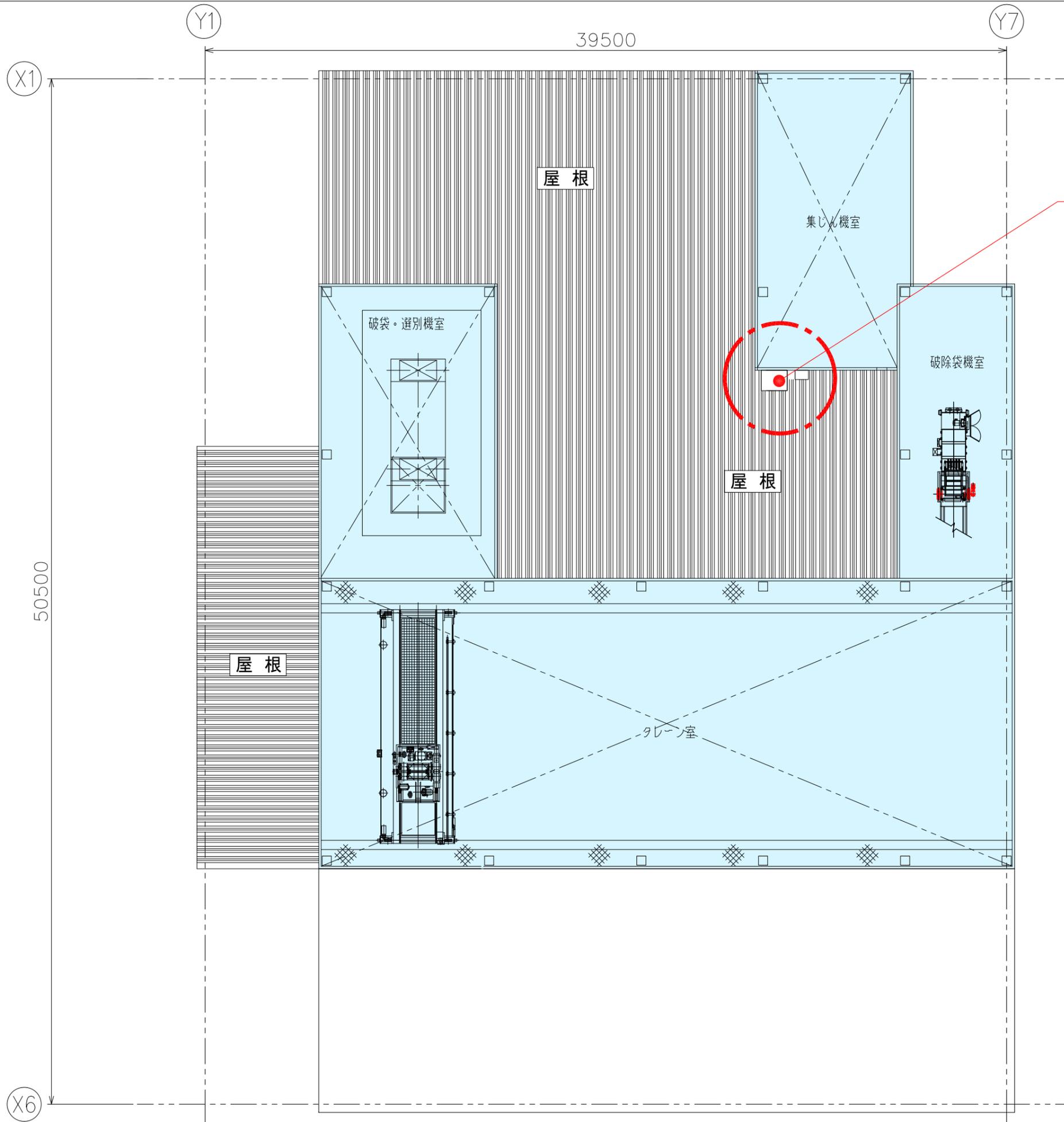
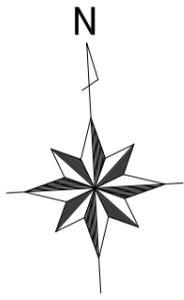
工場棟・管理棟
1階平面配置図
S=1:200(A3)



クレーン操作室

管理エリア
工場エリア

工場棟・管理棟
3階平面配置図
S=1:200(A3)



プラント脱臭排気口

工場エリア

工場棟・管理棟
3階上部平面配置図
S=1:200(A3)

(X1)

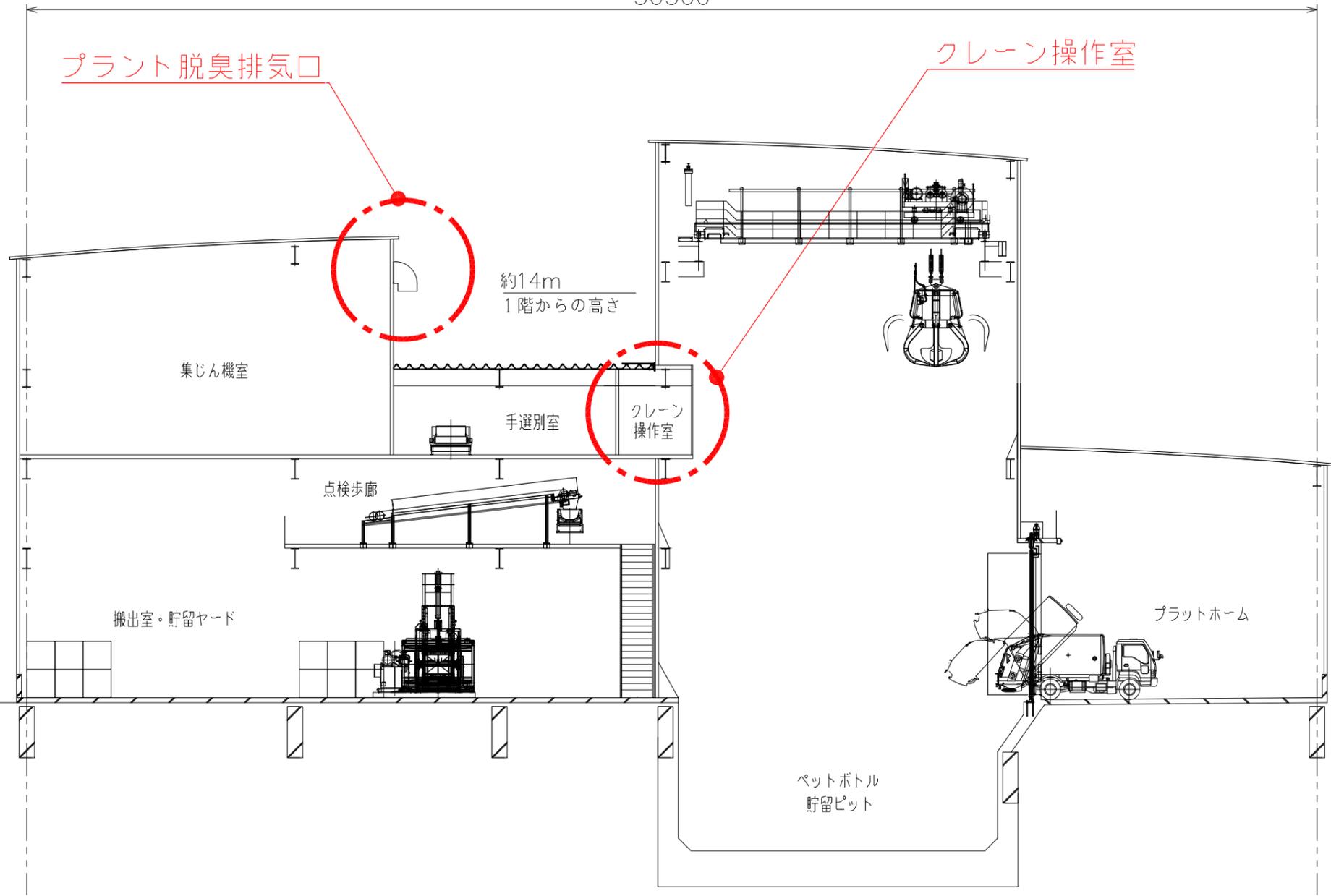
(X6)

50500

プラント脱臭排気口

クレーン操作室

▼1FL+21800
(最高高さ)



▼1FL+9500
(3階)

▼1FL+6000
(2階)

▼1FL±0
(1階)

▼1FL-6000
(ピット階)

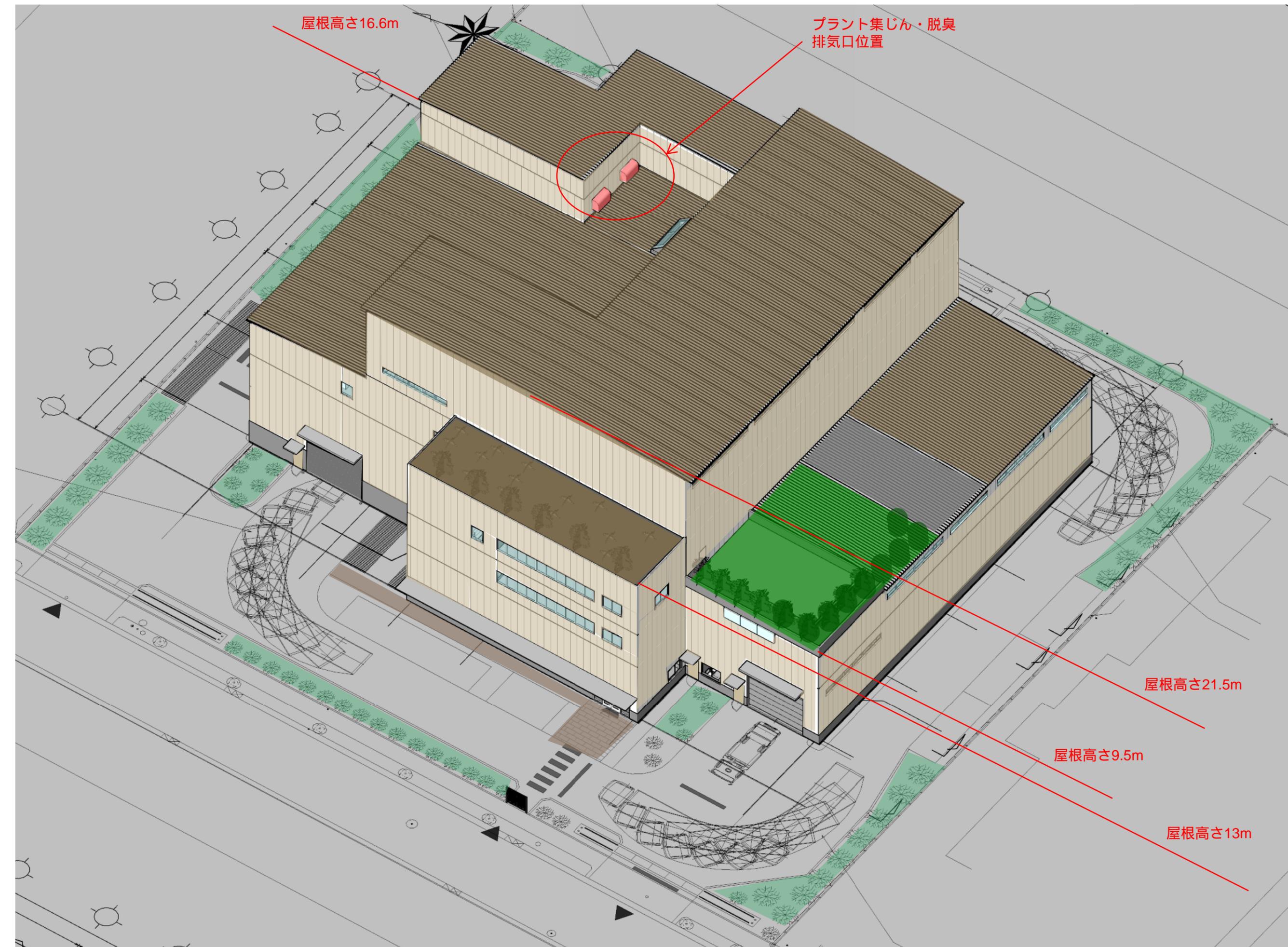
屋根高さ16.6m

プラント集じん・脱臭
排気口位置

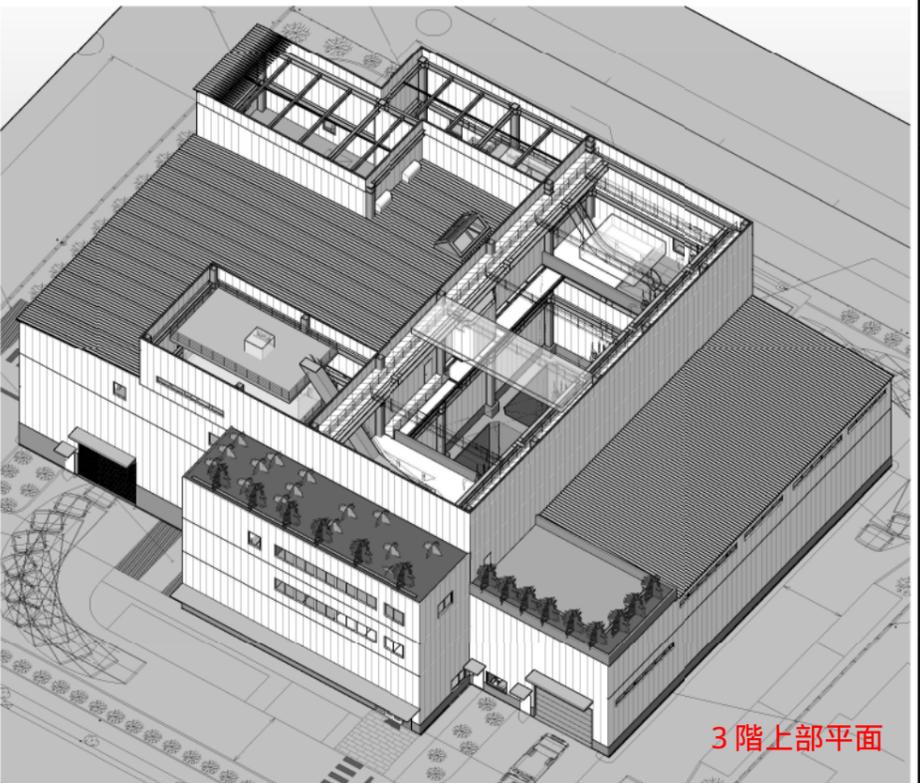
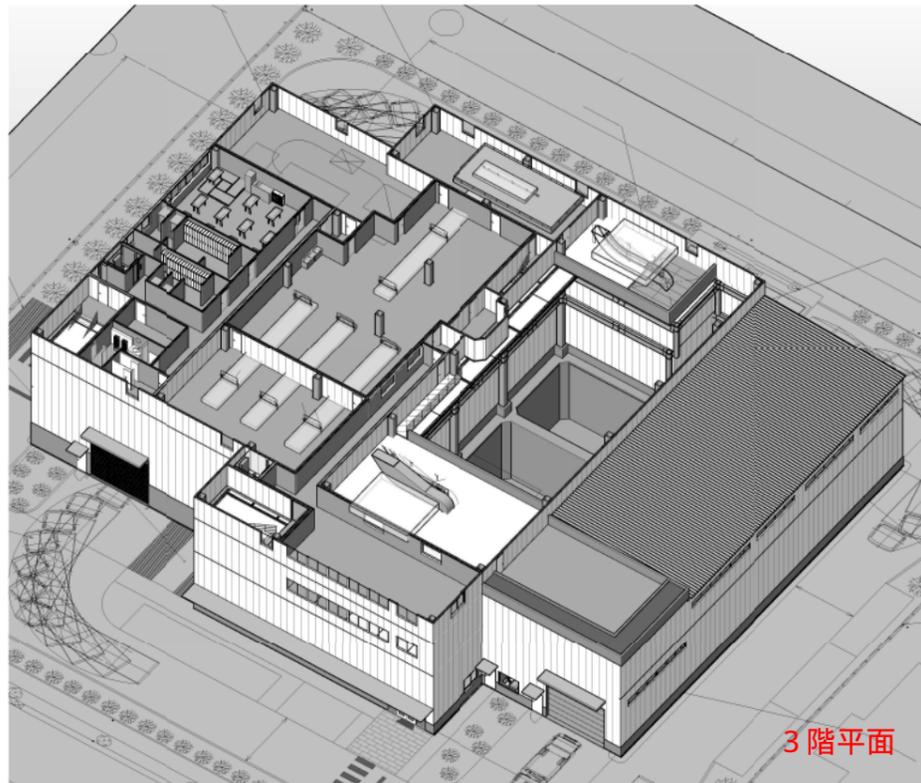
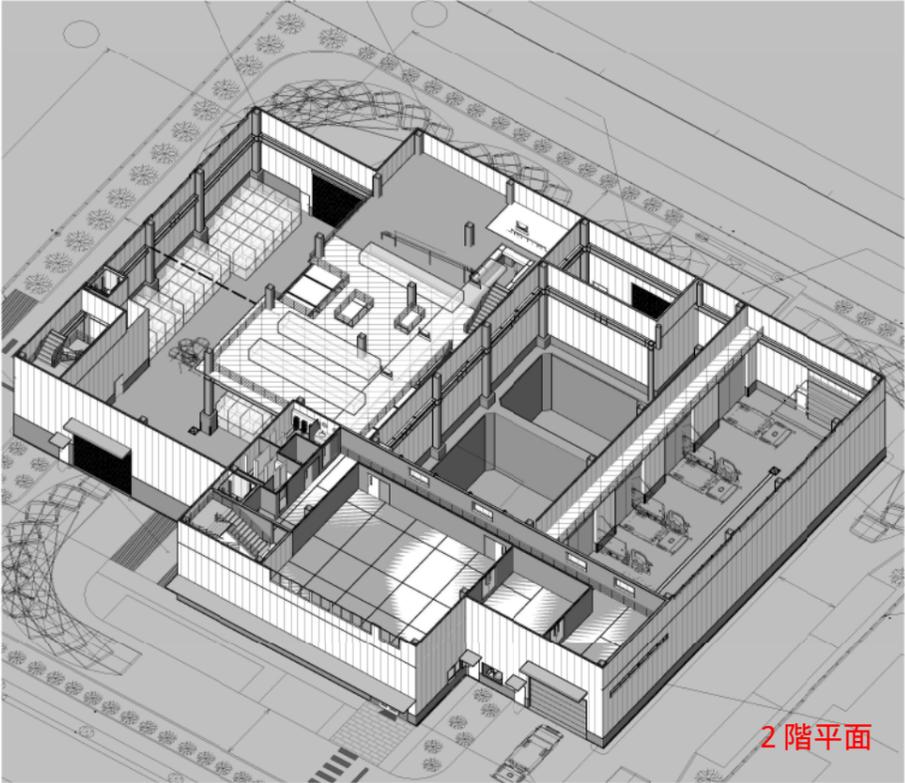
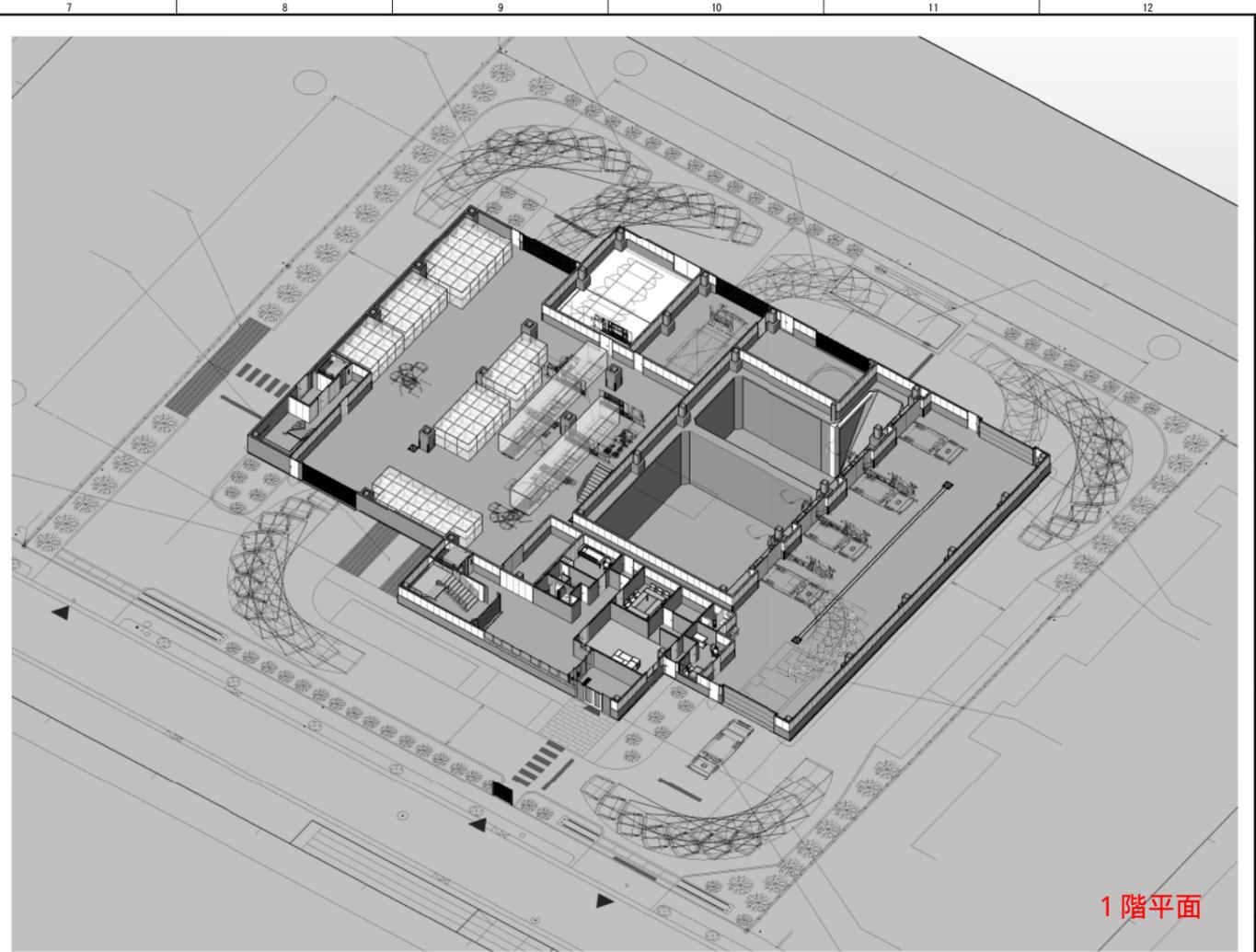
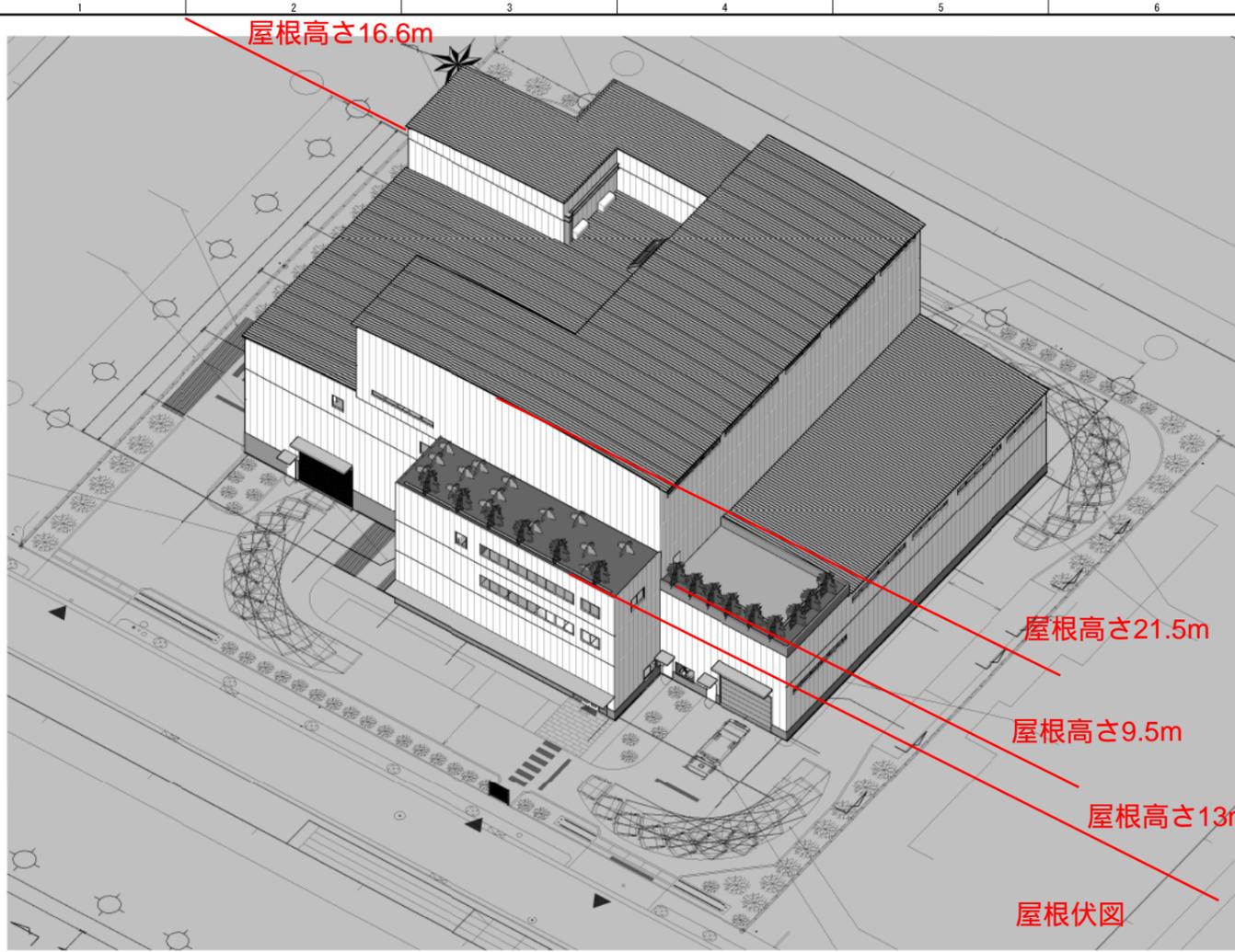
屋根高さ21.5m

屋根高さ9.5m

屋根高さ13m







設計者	一級建築士 第269760号 河村 和彦	Date	Drawn	Name	メタウォーター株式会社 METAWATER Co., Ltd.	Title	小平・村山・大和衛生組合様 (仮称) 3市共同資源物処理施設整備工事 バス2	Plan No.	J1024282	Scale	
	一級建築士 第245844号 森竹 敏朗		Checked	作成者			Page No.		A-16		
			Confirmed	検収者			Ref.				
				承認者							

◆環境対策◆

2次公害の発生を防止するため、次の騒音、振動、悪臭、排水および粉じん対策を行い周辺環境に配慮します。

1) 騒音対策

騒音対策として騒音基準に準拠した対策を行ないます。

【騒音基準】

朝夕（6:00～8:00） （20:00～23:00）	55 dB 以下（敷地境界線上にて）
昼間（8:00～20:00）	55 dB 以下（全系列定格負荷時に敷地境界線上にて）
夜間（23:00～翌6:00）	50 dB 以下（敷地境界線上にて）

<対策内容>

- (1) プラットホーム出入口扉、搬出室扉は、常時閉じた状態のまま操作を行ない、車両が進入・退出する時のみ開閉します。
- (2) 比較的騒音が大きい集じん系排風機（ファン）は専用の室に設置します。また、除じん・脱臭された集じん排気はサイレンサー（消音器）を通して外気に放出します。
- (3) 敷地南側と東側の敷地境界線上に、防音壁を兼ねた遮蔽壁（高さ2m程度）を設置します。

2) 振動対策

振動対策として振動基準に準拠した対策を行ないます。

【振動基準】

昼間（8:00～20:00）	55 dB 以下（全系列定格負荷時に敷地境界線上にて）
夜間（20:00～翌8:00）	55 dB 以下（敷地境界線上にて）

<対策内容>

- (1) 集じん系排風機（ファン）などの振動機器は防振装置を設置し、振動を吸収する対策を施します。
- (2) 圧縮梱包機などの重量がある機器は、コンクリート基礎の上に設置し、振動を吸収する対策を施します。
- (3) バグフィルタ（集じん機）は一般的な構造以上にリブ等の補強を行って本体の振動を防止します。集じんダクトは共振を防ぐため必要箇所にフレキシブルダクトを施工します。

3) 臭気・VOC・粉じん対策

臭気対策として悪臭基準に準拠した対策を行ないます。

【敷地境界線上の悪臭基準】

敷地境界線上で臭気指数10以下

【ダクト出口で除去率80%以上、またはT-VOC 400 $\mu\text{g}/\text{m}^3$ (5時間平均値)以下】

【大気汚染防止法で定義されるVOCの排出濃度をダクト出口で400ppmC以下】

<対策内容>

- (1) ごみピット室にある2基の受入ホップ及び手選別コンベヤに、集じんを兼ねた脱臭フードを設置し、バグフィルタと活性炭脱臭装置を通し、基準値以下に処理して屋外放出します。
- (2) 容リプラ、ペットボトルの各圧縮梱包機出口部に専用の排気フードを設け、VOCを含んだ空気の拡散を防止します。吸引した空気は除じんを行ない、VOC除去設備（光触媒+活性炭吸着塔）により基準値以下に処理して屋外放出します。
- (3) 見学者などが利用する自由スペースや居室エリアから工場エリアに通ずる通路には前室を設けて、工場エリアの臭気が居室側へ流入するのを防ぎます。

4) 排水対策

排水対策として下水道排水基準に準拠した対策を行ないます。

<対策内容>

- (1) プラント汚水は機械および床面の洗浄に使用した時に発生します。プラットホーム、搬出室は床面の水洗いが可能なよう水勾配を取り、最寄りの排水枡に集水します。
- (2) これらの汚水は汚水受槽に一時貯留し、油水分離後、公共下水道へ放流します。
- (3) 貯留ピット汚水からの硫化水素対策として、汚水受槽内をばっ気します。